第17回宮崎県新型コロナウイルス感染症対策協議会　議事概要

日時：令和4年1月18日（火）19：00～20：30
場所：防災庁舎4階　防43・44号室

（委員）
重症化予防策として、「中和抗体薬投与体制の強化」が記載されている。厚生労働省からの通達で、抗体カクテル療法はオミクロン株に対しては推奨しないとされているため、実際に投与できる薬は「ソトロビマブ」のみとなる。「ソトロビマブ」は症状が出てから投与することになっているため、保健所や自宅、宿泊療養施設での投与は難しいのではないか。資料では自宅等で投与するように捉えられかねないので、表現を改めた方がよいのではないか。検討をお願いしたい。

（委員）
経口薬について、発症から 5 日以内に投与を行う必要があるが、実際には自宅療養の開始時点で発症後 5 日間が経過している方もいる。自宅療養と決まった後に投与の検討を行っていたら間に合わない。感染が分かった段階で投与の判断をすることが必要だと考えている。各医療機関に対し、処方等の詳細の情報共有をお願いしたい。

（委員）
飲食を中心にしたクラスターから家庭内に感染が広がってきている。20 代から40代の世代が家庭に感染を持ち込み、10歳未満、10代の子どもが感染し、これから10代ぐらいのお子さんの患者が相当増えてくる可能性が極めて高い。これまでは高齢者が問題になってきたが、「第６波」は小児が中心になってくると予想されるので、それに備えた医療体制の確立が必要になってくると思う。後方支援病院が増えたとのことだが、成人や高齢者の対応を想定した医療機関がほとんどではないだろうか。小児に対応できる体制づくりが早急に必要だと思う。自宅療養者や宿泊施設療養者が夜間体調を崩した場合にすぐに対応できる体制整備も必要である。

（委員）
　県民に対しての行動要請について、赤圏域とオレンジ区域でどのように変わるのか、違いが分かりづらい。行動要請がどのように変わるのか、県民に対し分かりやすい形で示していただきたい。また、会食時の要請の中に、認証店を利用するよう記載されているが、認証店であれば感染しないというわけではない。具体的に飲食店における感染の場面を分かりやすく伝えていただくと、感染防止に繋がると思う。

（委員）
　オミクロン株への対策として、3回目のワクチン接種が重要になってくる。今回は国からの配布の約半分がモデルナになるということだが、現場ではファイザーの接種を希望する声が多い。モデルナをいかに打ってもらうかが重要なポイントだと考えている。集団接種でモデルナを使用すれば、バランス良く打っていけると思う。

（委員）
　文献によると、ファイザー、ファイザー、ファイザーで打つよりも、ファイザー、ファイザー、モデルナで打った方が感染を予防する効果が高いとのことである。このような情報をしっかりと県民の皆様にも知らせていただきたい。

（委員）
　受験シーズンに入っているので、学生の県外往来が活発になることが予想される。行動要請は高齢者や成人に対する内容となっているが、小児や学生についても、行動要請をわかりやすく示してほしい。
　また、ワクチン・検査パッケージを当面の間適用しないということだが、直近の検査で陰性を確認した方については、なんとか行動制限を緩和できないかと思う。ワクチン接種証のみだとブレイクスルー感染の可能性があるので、陰性証明を確認することで、イベント等の開催ができるのではないか。キャンプシーズンもはじまるので、検討をお願いしたい。

（委員）
　若者に対して、感染防止対策を徹底するよう行政から発信をお願いしたい。若い世代はどうしても他人事として捉えてしまいがちである。「初めて会う人や県外の人と会う場合は、特に注意してマスクをしないと、いつも会う人に自分が感染を広げてしまう可能性がある。」といったように具体的に伝えていくことが重要である。

（委員）
　オミクロン株は軽症で済むことが多いとよく言われるが、そのイメージが強くなり過ぎているように感じる。今回のオミクロン株はかなりの感染者が出ると予想される。デルタ株で、1 人の感染者から 9 人程に感染が広がると言われた。実行再生産数で言えば、その 3 倍から 4 倍オミクロン株では広がると言われているので、そういったことをより県民に分かるように伝えてほしい。若い世代の方は、感染したとしても自分は軽症だから大丈夫だという考えが非常に強いように感じる。

（委員）
　自宅療養を強く希望する人が多いように感じている。オミクロン株は軽症であるので、宿泊療養施設で隔離するまでもないと考えている方も多いかと思うが、感染力が非常に強いので、自宅療養を選択すると、同居家族全体に感染が広がる可能性が高い。特に同居家族に高齢者がいる世帯では自宅療養を行わないなど、それぞれの家庭の状況に応じて判断をしていくことが重要だと思う。

（委員）
　今後は感染者数ではなく、病床のひっ迫度合いを主な指標として対応を判断することとなったが、県民は感染者数に敏感である。今後、「まん延防止等重点措置」を行った上で、さらに県独自の「緊急事態宣言」を発令するという判断もあるのか。

（事務局）
　まずは、「まん延防止等重点措置」で局所的に感染を抑え込みたいが、感染爆発の状況になれば県独自の「緊急事態宣言」の発令もあり得る。社会経済活動の維持も考えながら対応を進めていきたい。

（委員）
　宿泊療養施設で対応する看護師からは、療養施設の応援に来ている職員の感染に対する意識改革が必要という意見が出ている。

（委員）
　軽症者が多いからか、救急搬送はまだ少ない状況にある。救急搬送事例に対応するにあたり、調整本部との連携が重要だと考えている。

（委員）
　３月から人の移動の多い時期を迎える。ワクチンの追加接種について、接種券の送付など、早めの対応をお願いしたい。

（委員）
　感染のピークに至るスピードが早い。感染者の７割が３０歳以下となっており、軽症者が多いのは感染の中心が若い世代であるからかもしれない。高齢者や基礎疾患のある方が感染すると、重症化するリスクがあることなど、県民への適切な情報発信を行うことが必要である。

（委員）
　延岡は小学校で感染が広がっており、家族が陽性者となったために、濃厚接触者となって休んでいる人が多く見られる。検査体制の拡充をお願いしたい。

（委員）
　重症化予防、児童への対応ができる体制整備を検討する必要がある。また、感染拡大により、医療従事者等のエッセンシャルワーカーが不足することが予想される。どのように対応していくか考えておくことが重要である。また、後方支援病院の確保も併せて進める必要がある。

（委員）
　後方支援病院の数は増えているが、スムーズに転院受入を行うことができる状況となっていなければ、いざというときに対応ができない。転院調整が入った場合にすぐに受け入れられるような体制を整えていただきたい。
この感染爆発の状況が続かないようにするために、改めて手洗いやマスクの正しい着用といった基本的な感染防止対策を呼びかけてほしい。アルコール消毒は行っている方が多いが、手洗いがおろそかになっているように感じる。

（知事）
　医療崩壊につながらないように早め早めの対策を行っていきたい。現在感染の主流となっているオミクロン株は軽症が多いと油断されがちであるが、最大限の警戒をしていきたい。県民にも、罹患したとしても風邪程度の軽症だという意識が広がりつつある。正しく恐れてもらうためにも、丁寧に説明をしていくとともに、ワクチン接種等の対策を強化していく。